

報告第8号

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について（概要）

令和7年4月17日に実施した全国学力・学習状況調査結果について報告すること。

令和7年8月21日提出

山陽小野田市教育委員会

教育長 長友 義彦

令和7年度全国学力・学習状況調査の山陽小野田市の結果について

山陽小野田市教育委員会学校教育課

1 調査概要

- (1) 調査の目的
- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
 - そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (2) 調査期日
- 令和7年4月17日 小学校 ： 国語、算数、理科 中学校 ： 国語、数学
 - 令和7年4月14日～4月17日のうち1日（学校ごとに指定） 中学校 ： 理科、生徒質問調査
 - 令和7年4月18日～4月30日のうち1日（学校ごとに指定） 小学校 ： 児童質問調査
- (3) 学校数及び学年
- ① 市立小学校 11校 対象学年：第6学年（470名）
 - ② 市立中学校 6校 対象学年：第3学年（454名）
- (4) 調査内容
- ① 教科に関する調査（小学校…国語、算数、理科 中学校…国語、数学、理科）
 ※中学校理科は、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）を用いてオンライン方式で実施
 - ② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問） 【小学校：71項目 中学校：70項目】
 - イ 学校に関する調査（学校質問） 【小学校：84項目 中学校：84項目】 ※児童生徒質問調査はオンライン方式で実施

2 調査結果

(1) 教科に関する調査

望ましい状況	課題の見られる状況
【小中ともに】 ○全ての教科（国語、算数・数学、理科）において、全国平均正答率と同程度であった。 【小学校】 ○国語「書くこと」において、全国平均正答率を上回った。 ○理科「生命」を柱とする領域では、全国平均正答率をやや上回った。 ○国語、理科では、記述式での回答が全国平均正答率を上回った。	【小学校】 ●算数「変化と関係」において全国平均正答率を下回った。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

① 児童生徒に対する調査（児童生徒質問）

望ましい状況	課題の見られる状況
【小中ともに】 ○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。 ○読書が好き。 ○これまでに受けた授業では、自分に合った考え方、教材、学習時間などになっていた。 【小学校】 ○自分と違う意見について考えるのは楽しい。 ○PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると捉えている児童の割合が全国及び県よりも高い。 【中学校】 ○学校が休みの日に1時間以上勉強する生徒の割合が全国及び県より高い。 ○自分がPC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる。	【小中ともに】 ●自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると捉えている児童生徒の割合が全国に比べ低い。 【中学校】 ●理科の授業では、観察や実験をよく行っていると捉えている生徒の割合が、全国及び県に比べ低い。

② 学校に関する調査（学校質問）

望ましい状況	課題の見られる状況
○授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」と答えた小・中学校の割合が、全国及び県より上回っている。	●ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されている」と思うと回答した中学校の割合が、全国及び県に比べ低い。

3 今回の結果を踏まえた重点的な取組

(1) 継続して行う取組

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ② 学校全体における組織的な取組（モジュール学習、学び直しなど）の推進
- ③ 安心して通える学校づくり
- ④ 基本的な生活習慣の確立

(2) 今後に向けた取組

- ① 知識の定着、実践力の向上、非認知能力の育成に向けた体験的な学びの推進
- ② 学習内容の定着、自律的な学習習慣を育むための授業と家庭学習の連携
- ③ 「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実につながる生成 AI や ICT を用いた学習の充実